

平成30年度 子ども育成学部

自己点検評価報告書

1. 概 要
2. 現 況
3. 教育課程
4. 実 習
5. 学生生活支援
6. キャリア(資格取得・就職)支援
7. 地域交流・貢献活動
8. 後援会・家庭連絡
9. 研究活動
10. その他
11. 将来構想

平成31年3月

富山国際大学 子ども育成学部

1. 概 要

1. 実績と現状

(1) 学部理念・目標の達成

富山国際大学は、「時代の潮流に対応できる健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。2009(平成 21)年 4 月 呉羽キャンパスに、少子高齢化時代における地域課題の解決に取り組む人材の育成を通して、地域社会に貢献することを目的として、子ども育成学部を設置した。

子ども育成学部が目指す人材像は、教育的愛情と子どもの福祉への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せ持ち、一人一人の子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、資質の高い実践的能力を備えた子ども育成の専門家である。

学部開設 10 年目の平成 30 年度は、学生総数 392 名(定員充足率 115.3%)の学生数になり、総定員を充足して 4 年目になる。平成 30 年度の新入生は 91 名であり、定員超過率 101.1%であった。

平成 31 年 3 月末には、第 1～6 期生に続いて第 7 期生 95 名が就職・進学など学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め、卒業生累計は 583 名となった。

卒業生の成果は、県内の教育・福祉・保育関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価も次第に高まっている。高い進学ニーズともっと人材を輩出して欲しいという地元のニーズに応えるため平成 30 年度に 90 名定員として、「富山国際大学の収容定員の増加に係る学則変更」について資料を作成し、文部科学大臣より 8 月 29 日付で認可された。同時に、富山県へ「指定保育士養成施設の定員変更に関する申請書」についても資料を作成し、9 月 27 日付で申請し、富山県知事より 11 月 28 日付で承認された。平成 30 年度より入学定員は 90 名にするが、保育者育成課程の定員は変更せず平成 29 年度と同じ 80 名とした。

平成 31 年度入試志願者数は、246 名(定員 90 名の 2.73 倍)となり、普通科単独校からの志願も増加して、受験生の質も向上した。

3 年次編入生も 3 名(定員充足率 80%)であった。富山短大福祉学科からの編入生が 3 名おり、これからも学園内連携を推進していきたい。

(2) 教育課程・授業の展開及び教員組織

教育職員免許法の改正及び教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成 31 年 4 月 1 日より新たな教職課程の適用に向けて、平成 29・30 年度に資料を整え、平成 30 年 4 月 16 日に申請し、平成 31 年 1 月 25 日に認定された。また、児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法の一部改正に伴い、平成 31 年 4 月 1 日より適用に向けて資料を整え、平成 30 年 9 月 28 日に申請し、富山県知事より平成 30 年 10 月 31 日に認定された。

3 年次「富山に学ぶインターンシップ I」が開講され、4 年次でも体験が可能になった。

教員組織では、保育関係の教員 2 名増員の専任教員 20 名体制で、事務組織に変更はなかつ

た。教育・保育・福祉の教員が揃った中で、工夫改善された3分野の教育が行われた。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の2回実施した。特に、webによる全教科において実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用し、教職を目指す学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、それぞれ改善・充実を図ってきた。

(3) 学生生活支援・家庭との連絡

校舎等施設利用のあり方など、学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会(2回実施)や学友会(全員加入制)との連携にも引き続き努めた。

学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担任・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。

家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」(第19報・第20報)の配布、年2回の保護者相談会(6/23(土)、10/20(土))のほか、学生生活や進路についても、適宜個別に家庭(保護者)との連絡を行い、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

また、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部の第6回ホームカミングデーに同窓生が参加した。平成31年3月2日(土)に小学校教育研究学会が設立され、卒業生の研究と修養と相互の連絡と協力、懇親を促進できる体制が出来た。

(4) キャリア支援

キャリア支援については、「小学校教員採用10名、公立保育士採用10名、社会福祉士国家試験合格10名」を目標に、キャリア支援入門講座や支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担任の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数95名に対して「小学校教員試験合格45(既卒者16含む)、公立保育士採用17名(既卒者4含む)、社会福祉士国家試験合格17名(既卒者2名含む)」の成果を上げることができた。どの分野も、目標値の2倍近い成果をあげた。臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野38名(前年度33)、保育・幼児教育分野27名(前年度31)、社会福祉分野12名(前年度16)、教育系大学院等進学3名(前年度3)、公務・警察5名(前年度5)、企業10名(前年度12)、その他0名(前年度2)であり、卒業生の約8割が専門分野または関連分野に進んだことになる。今年も小学校分野に進んだ人数が、保育・幼児教育分野を上回り、この傾向は続くと予想される。また、社会福祉士国家試験の合格率は65.4%(現役合格率は78.9%)で、全国の平均合格率28.9%を大きく超え、全国の第19位、私立大学の中では5位を達成した。

(5) 研 究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金(科研費)助成研究1件(前年度3)、(財)富山第一銀行奨学財団研究助成2件(前年度3)などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第10巻11件(前年度14)を発刊した。また、学内

教員相互の研究交流のための研究交流サロンも 1 回(前年度 1)開催した。

(6)地域交流・貢献活動

「子ども育成研究交流センター」の活動として、子ども育成に関するセミナー及びフォーラムの開催(各 1 回)とニュースレター「子ども育成研究」の発行(2 回)、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム 19 件(高校 13、地域 6)、教育・福祉・保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

(7)大学改革・教育改革への取り組み

全学的な取り組みの中で、文科省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業)の参加校として採択されたことに伴い、本学が申請していた「地域課題探求型学習を核としたとやま地域創生人材育成プログラム」として平成 31 年度までの 5 年間、「地(知)の拠点大学」として認定された。

学部運営体制としては、学部連絡調整会議の開催(5 回)及び学部運営委員会の開催(8 回)をはじめ各委員会の開催を通して、教職員の目的と情報の共有に努め、教育指導・実習指導・学生指導など学部運営の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

2. 課題

(1)第 8 期生の高い就職・進学実績の実現

第 1～7 期生の就職・進学実績は、関係者の間で注目・評価されたとはいえ、その成果に安住してはいけない。8 期生は、小学校、保育・幼児教育、社会福祉の各分野で、目標をより高く掲げて、過去 7 年間の水準を上回る成果を目指していかなければならない。社会福祉士国家試験で、卒業生は 7 名受験し合格 2 名であった。今後も、卒業生への支援に取り組まなければならない。

(2)学部総定員(収容定員)の確保に対応した教育の質の向上

平成 30 年度の定員超過率 101.1%であったため、今後、定員超過率 130%を超えないようにするとともに、100 名前後を入学させる定数管理を行いたい。また、学園全体の改革を見据え、3 年後には、定員(370 名)充足率を平均 1.15 未満になるよう定員管理を行わなければならない。

年度	H30	H29	H28	H27	平均
入学定員(人)	90	80	80	80	82.5
入学者数(人)	91	116	89	94	97.5
入学定員 超過率	1.01	1.45	1.11	1.17	1.20

平成 30 年度に続いて 31 年度においても、学生定員の確保(総定員の充足)を維持することができることとなった。しかし、辞退者が 23 名と多かった。そのため、歩留率が低くなり 9 名だけ超える入学者になった。今後は、第 10 期生への教育の質の向上に向けたきめの細かい指導の継続、高いレベルと考えられている第 8・9・10 期生に対する教育・指導の充実など教育の質のより一層の向上が課題である。

(3)再編された教員組織・事務組織の活動充実

平成 30 年度当初には、新規採用教員 4 名を含む専任教員 20 名の体制である。教員数は昨年より 2 名増となり充実した指導ができる体制になり、協働体制を強化して臨みたい。全ての学年で定員を超えており、開設時以来の実績を適切に継承・発展させて、学部としての教育力・研究力・社会貢献力をさらに高めていかなければならない。

2. 現 況

1. 学生の状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

	在籍者数	内訳 (1)	内訳 (2) 出身県								
		男：女	富山	新潟	石川	福井	岐阜	愛知	山形	茨城	神奈川県
1 年生(定員 90 名)	91 名	16：75	90	1							
2 年生(定員 90 名)	116 名	22：94	113		2	1					
3 年生(定員 80 名)	87 名	19：68	81	5	1						
4 年生(定員 80 名)	92 名	23：69	86	2	2		1			1	
計 (定員 340 名)	386 名	80：306	370	8	5	1	1			1	

（参考）平成 27～31 年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備 考
31 年度入試	80 名	270	197	99	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	5	3	3	3 年次編入学
30 年度入試	90 名	247	177	91	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	4	4	4	3 年次編入学
29 年度入試	80 名	265	195	116	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	4	4	4	3 年次編入学
28 年度入試	80 名	229	188	89	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	6	4	4	3 年次編入学
27 年度入試	80 名	259	174	94	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	8	6	6	3 年次編入学

2. 教員組織（平成 30 年度）

区 分	人数	内 訳
子ども育成学部専任教員	20 名	教授 9 准教授 7 講師 4
学園内教員（兼担・兼任）	12 名	現代社会学部 4 富山短大 8
学園外教員（非常勤講師）	36 名	
計	68 名	

3. 呉羽キャンパス事務室（平成 30 年度）

区 分	人数	内 訳
専任事務職員	3 名	事務長 1 係長 1 主査 1
兼任職員（短大）	2 名	図書館 1 健康管理センター 1
契約職員	2 名	参事（キャリア支援担当）1 職員 1
計	7 名	

3. 教育課程

1. 実績と現状

(1) 新規の取組み

① 教職課程の再課程認定

保育士養成課程の改定

子ども育成学部の教職課程の再課程認定ならびに保育士養成課程の改定にともなう申請ならびに審査への対応を実施するにともない、諸改訂ならびに諸要領等に対応するように本学部のカリキュラムの見直しに取り組んだ。その結果、文部科学省ならびに厚生労働省および富山県からの認定を得た。

同時に法定資格・免許等の学修に関わる履修要件及び認定要件に即した達成度評価がシラバス表記をはじめとして厳格化されたので、対応作業を進め、文部科学省より承認を得ることができた。

② 教養科目の再検討

教養科目の配当年次等について再検討を行った結果、4 年次配当教養科目の一部について、3 年次においても履修ができるように配当年次を見直すことを通じて学生の履修機会の拡大を行った。また、教養教育の全学部による合同実施についての課題の洗い出しが要請されて検討した結果、交通手段やマスプロ教育や時間割上の諸問題が指摘され、全学学務委員会において現実的可能性の限界について合意された。

③ 自校教育へのゲストスピーカーの招聘

子ども育成学部の 1 年次必修科目「子ども育成入門」で、大学の基本理念「共存・共生の精神」の祖である足立原貫講師を特別ゲストスピーカーとして招いて、講師が東京大学入学式で拝聴された総長としての南原繁（学園の基本理念「知性・教養・個性」の祖）からの式辞の体験談をしていただくという稀有の機会を設けることができ、4 月 20 日付北日本新聞に掲載された。

④ 子ども育成学部小学校教育研究学会の創設を通じた教職教育課程の充実

子ども育成学部小学校教育研究学会の発足を通して、再課程認定で更新された本学部教育課程の諸資産を有効活用して、教育現場で活躍する本学部卒業の現職教員への現職教育を通じた卒業生支援の仕組みを作った。同時に、この仕組みは本教育課程の諸資産の強化にも繋がることが期待される。

(2) 教育指導

① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施

② 教養演習：(1・2 年共通) 初年次教育（平成 30 年 4 月）リテラシーガイダンス(平成 30 年 4～5 月)、ゼミ別活動合同発表会(平成 30 年 7 月)、個人研究ゼミ発表(平成 30 年 10 月～平成 31 年 1 月)

③ 卒業研究：(3 年) 中間発表（平成 30 年 10/20～11/1）

(4 年) 卒業研究発表会(平成 31 年 2/9)

④ 地域社会参加活動：(1 年) 20 時間以上の地域活動体験、活動報告会、活動報告集

⑤ 学外施設等を利用した授業：

授業科目	開講時期	利用施設等	実施日
------	------	-------	-----

日本の動き	1 年前期	北日本新聞社(越中座)	30. 5/24(木)
地域社会参加活動	1 年通年	県総合運動公園陸上競技場(障害者スポーツ大会)	30. 5/21(日)
自然体験活動	1 年通年	富山市ファミリーパーク	30. 6/6(水)
〃	〃	富山県呉羽青少年自然の家	30. 10/17(水)
〃	〃	富山県中央植物園	30. 11/14,11/21(水)
〃	〃	富山県呉羽青少年自然の家	31. 1/18(金)
保育内容(環境)	2 年前期	富山市・射水市の公園	30.4.16(月)～5.2(水)
人間と環境	〃	野鳥の園(富山市三熊)、自然博物館ねいの里	30. 5/13(日)
〃	〃	立山博物館、まんだら遊苑	30. 6/30(土)
〃	〃	イタイイタイ病資料館	30. 7/5(木)
教養演習	1～2 年通年	松山ゼミ (1・2 年) 富山市ガラス美術館、富山県水墨美術館	30.12.15(土)
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	3～4 年通年	本江ゼミ (3 年) くろべ牧場まきばの風	30.9.10/ 6(土) ～ 7(日)
〃	〃	本江ゼミ (4 年) 長良川、牧歌の里、高山	30.9/ 24(月)～25(火)
〃	〃	大藪ゼミ (3 年) 大岩山日石寺	30. 5/15(金)
〃	〃	大藪ゼミ (3 年) 新湊新港	31. 3/3(日)
〃	〃	松山ゼミ (3・4 年) 自然博物館ねいの里	30.8.29(水)
〃	〃	松山ゼミ (3 年) 糸魚川フォッサマグナミュージアム	30.5.13(日)
〃	〃	松山ゼミ (3 年) 能作 NOUSAKU LAB	30.12.1(土)

⑥ 授業改善の取組み：授業アンケートの実施（前・後期末 2 回）

⑦ 平成 29 年度「入学前オリエンテーション」の実施（平成 30 年 12 月 呉羽キャンパス）
 [推薦入学予定者 19 名、3 年次編入生 3 名]

2. 課題等

(1) 教養演習の運営方法、活動内容

1 年次のゼミ配属については、出身高校が重ならないこと、また男子学生が 1 名だけにならないよう配慮した。2 年生については、1 年次の教員・学生と重ならないこと、また、病気や欠席等配慮を要する学生が一部のゼミに偏らないようにした。

前期の教養演習では、第 2 回目にオリエンテーション交流合宿と学部交流会の説明会を行った。第 3 回目において、「初年次教育」として学長特別講義「富山国際大学の歴史と基本理念」（1 年生全員）を実施した。また、第 4 回目には、「リテラシーガイダンス 2」として、「守秘義務について」（彼谷教授）、「調査研究の基礎」（大平准教授）、「自校教育」（大藪教授）（1 年生全員）について、各教員から講義を受けた。前期は、ゼミごとに調査・探求を行い、7/4（水）に「ゼミ別活動合同発表会」を行った。

後期、グローバル化社会に向けた教養教育の一環として「海外体験発表会」を行った。韓国（大邱韓医大学）の交換留学生や、2 プラス 2（中国・南通大学）で入学した学生から、海外の実情や留学生からみた日本の特徴が紹介された。また、教員（佐部利講師）の海外体験を導入するとともに、本学部の学生のカンボジアでの「ボランティア体験」やカナダでの「異文化研修」の報告があった。後期は、個人研究を中心に行った。

(2) 卒業研究の運営方法、活動内容

3 年生は 10 月の大学祭からの中間発表の期間を延長して拡大した。4 年生は、2 月実施

の卒業研究発表会に力を注いだ。また昨年度に引き続き卒業論文提出時期を12月にして、社会福祉士国家試験対策に時間を確保できるようにしている。

学生の卒業研究論文の著作権に配慮して、今年度より卒業研究の閲覧に関する同意書の書式を作成して集積することとした。

大学祭時期には、4年生が中心となり所属ゼミを紹介するホスターを製作展示した。

(3) 海外留学～「インターナショナルプログラムズ（短期）」「同（長期）」の実施

春季休暇を利用して「インターナショナルプログラムズ（短期）」に2名参加した。派遣先はマルタ大学とサザンクロス大学である。課題として3点を挙げておきたい。まず、例年通りの参加人数であり、増加が望まれる。これとともに、これまで検討する学生はいても実現には至っていない「インターナショナルプログラムズ（長期）」に行く学生が今後出てくることを期待したい。第3に、英語の必修科目が1年次しかないことから、インターナショナルプログラムズ（短期）に参加した学生への継続的支援が必要である。今年度の参加者の1人（小学校教員及び中等教育の英語教員志望）は、1年次ですでにTOEICが600点を超えているので、3年次までに県の小学校教員採用試験の加点対象である730点、あるいは800点程度まで到達することが可能である。継続的に英語習得に取り組めるよう、将来のゼミ担当者と英語教員が協力して見守り、支援していくことが望まれる。

(4) 海外研修～「異文化研修」その他

子ども育成学部で開講している「カナダ異文化研修」には、子ども育成学部から9名、現代社会学部から1名、計10名の参加があった。前年度の一部参加者のアドバイスによって初めて水曜日に現地入りし、レスブリッジ大学への通学を（前年度までの5日間から）7日間に増やした。さらに、同大学の配慮により、各参加学生の専攻分野により良く対応できるプログラム内容にする試みがなされ、加えて文化研修の面でも新たな要素が取り入れられた。その結果、学生達にとってこれまで以上に充実したプログラムとなった。次年度は同じような日程でのプログラム提供をレスブリッジ大学に依頼したいと考えている。

現代社会学部で開講されているものでは、「中国異文化研修」に1名、JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）の海外留学支援制度（協定派遣）に採択された「韓国異文化研修」に3名、「タイ国際交流実習」に1名、観光専攻の海外研修である「シンガポール研修」に2名が参加した。いずれも事後の感想文提出を依頼して研修の成果を見てみたところ、どの学生にとっても自身の視野を広げ、様々な発見や学びのある良い機会になったことが分かる。全体的な参加人数は前年度より多少減少したので、今後も多くの学生が海外研修のプログラムに参加して国際的な学びを続けていけるよう支援していきたい。

(5) 特色ある教育プログラム「副専攻プログラム」の実施と今後の課題

昨年度から全学的に、上述の「グローバル人材育成プログラム」のほか「地域創生人材育成プログラム」も開設している。年度はじめのオリエンテーションにおいて「副専攻プログラム」について説明したうえで、さらに年度はじめに「副専攻プログラム」説明会を実施した。海外のインターンシップが地域創生人材育成プログラムでも活かせるかなど、実施に伴って詳細な施行細則を整備しながら、広い視野をもってグローバル世界および地域社会で活躍できる人間の育成に向けた展開に取り組んでいる。その結果、子ども育成学部の4年次卒業生1名が初の「地域創生人材育成プログラム」の修了証を得て卒業することができた。なお、審査も初めてということで卒業論文の審査員の選定と依頼手続き、ならびに謝礼の準備等に課題を残したので、学部学務委員会を通じて全学学務委員会に謝礼の予算化も含めて制度的改善を申し入れた。

4. 実 習

1. 実績と現状

(1) 実習の取り組み状況

- ①「幼稚園教育実習Ⅰ」：7カ所43名（H30.11）、報告会（H30.12）
- ②「幼稚園教育実習Ⅱ」：19カ所22名（H30.9）、報告会（H30.12）
- ③「保育所実習Ⅰ」72カ所72名（H30.9※）、報告会（H30.10）※1名は3月実施
- ④「保育所実習Ⅱ」52カ所54名（H30.6）、報告会（H30.9）
- ⑤「施設実習Ⅰ」：29カ所73名（H30.11～12, 2班体制）、報告会（H31.1）
- ⑥「施設実習Ⅱ」：5カ所6名（H30.6）、報告会（H30.9）
- ⑦「小学校教育実習」：53カ所62名（H30.9）、報告会（H31.1）
- ⑧「介護等体験」（小学校教員免許関連）：社会福祉施設49ヶ所（5日間）+特別支援学校13カ所（2日間）60名（H30.6～H30.11）、報告会（H31.1）
- ⑨「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」：12カ所21名（H31.2～3）、報告会（2019.5 予定）
- ⑩「スクールソーシャルワーク実習」：小学校1カ所・生活保護受給世帯3カ所3名（H30.4～H31.1）、報告会（H31.2）
- ⑪「富山に学ぶインターンシップ・Ⅰ」：26カ所30名（H30.6～12）、報告会（H31.1）

(2) 実習指導センター会議の開催

実習指導センター会議を5/30、9/27、12/19、2/6、3/27に開催し、実習履修要件抵触者の検討及び対応・経過を確認するとともに、各実習の課題等を協議した。

- ・履修延期者：相談援助実習Ⅰ・Ⅱ（2名）※4年次に履修予定
- ・実習不合格者：施設実習Ⅰで不可となった学生1名については、ゼミ担任や保育者養成課程委員会と連携して、今後について個別指導を行った。

2. 課題

(1) 個別配慮を要する学生への対応

健康不安等、個別配慮を必要とする学生が増加傾向にあることから、その対応が課題となっている。保健室と連携を密にして学生の健康状況等の把握に努めることが必要である。

(2) 入学者増に伴う実習先の確保

入学者増に伴う実習先の確保が難しくなっている。各部会でその対応を検討する。

平成30年度は2年次に行う保育所実習Ⅰ・施設実習Ⅰの履修学生が多く、特に施設実習Ⅰは2班体制で対応した。次年度は、3年次の小学校教育実習（及び介護等体験）の履修学生が多く、実習先の確保や実習指導に配慮が必要である。なお、幼稚園教育実習Ⅱ履修者増への対応については、保育所から移行した幼保連携型認定こども園を新たに確保した。

(3) 実習指導センターの充実

専門職養成教育の質の維持・向上のためには、実習指導教員の連携や工夫に加えて、年間11実習に関する様々な書類作成や連絡調整等の業務を担う実習担当職員の配置が必要であり、継続して要望していく。

5. 学生生活支援

1. 実績と現状

(1) 新規の取り組み

- ① 大学祭における地域の子どもたちが楽しめる企画とラウンジにおけるモザイクアートなど新しい活動の工夫
- ② 大学祭の模擬店の内容の充実と食品衛生と安全対策に関する短大との連携の強化
- ③ 大学祭の学生主体の模擬店運営のための会計等のシステムの改善
- ④ 学友会主催の「七夕祭」「クリスマス会」「なごみ会」の工夫と地域のスマイルクラブのみなさんとの交流による内容の充実
- ⑤ 大学周辺の地域清掃活動(通年)の、学友会による学生のボランティア活動としての取り組みの定着と実施の工夫
- ⑥ 陸上競技サークルの創設による、サークル活動の活性化
- ⑦ スポーツ文化交流会等の行事への参加の見直し

(2) 現状 (1=1年生、2=2年生、3=3年生、4=4年生)

- ① 学部交流会 (1234) アルビス小杉総合体育センター (H30.4)
- ② オリエンテーション交流合宿 (12) 国立能登青少年交流の家、(H30.4)
- ③ スポーツ文化交流会 (1234) 東黒牧キャンパス(運動系・文化系)、(H30.6)
- ④ 学友会の運営支援 (1234)
総会 (H30.4)、七夕祭 (H30.7)、オープンキャンパス (H30.7・8)、
クリスマス会 (H30.12)、音茶会「なごみ会」(H31.3)
- ⑤ 大学祭実行委員会の運営支援
- ⑥ 大学祭(第10回仁友祭)の開催 (H30.10)
テーマ:「魅 ～ひとりひとりの輝く花を咲かせよう～」
卒業研究中間発表 (3)、卒業研究ゼミ紹介 (4)、各実習紹介 (1234)
各サークル企画イベント (1234)、模擬店 (1234)
- ⑦ クラブ・サークル活動への支援 (1234) 運動8・文化13 計21サークル
(運動系) 女子軟式野球(短大と合同)、SPORTY、ダンス、バスケットボール、
バドミントン、バレーボール、フットサル、陸上競技
(文化系) 吹奏楽部、アカペラ、イラスト、SSW・BBS研究会、書道、
Tuins English Club、TIES(富山国際大学小学校教育研究会)、
保育サークル～にこにこ～、学生団体MUL、茶道、軽音楽、
歩いて発見!となみ野サマーチャレンジ、I・C・S(H30.3現在)
- ⑧ 「夢への架け橋事業」への応募・実施 (1234) 7件
ア 科学実験教室・自然体験ボランティア活動(助成額70,000円)
イ ちょっこ おいでま こども食堂キャンパス(助成額200,000円)
ウ 小学校体育授業・中学校部活動 指導サポート事業(助成額90,000円)

- エ 限界集落支援事業（助成額 70,000 円）
 - オ 小中連携特別活動支援事業（助成額 20,000 円）
 - カ World Friends in Toyama（助成額 70,000 円）
 - キ MUL ごと体験教室(助成額 40,000 円)
- ⑨ 富山国際学園関連施設（みどり野幼稚園、にながわ保育園）での継続的ボランティア活動の実施
- 保育サークルにここ（34）26 名、計 13 回
- ⑩ 学友会との懇談会（学友会と教職員）2 回実施（H30.6、H30.12）
- ⑪ カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム：随時実施
- ⑫ 防災訓練（1234）（H30.9）
- ⑬ 交通安全講習会（1234）（H31.2）

2. 課題

（1）学生駐車場不足の問題

慢性的に、学生の駐車場については少ない状況が続いている。民間の駐車場の利用も含めようやく駐車可能な状況にある。さらに平成 29 年度末から始まったみどりの幼稚園の改築工事のため、厳しい状況が続いた。呉羽キャンパス全体的に短大、大学ともに駐車場不足が不足している。特に授業時間の関係で一時的に駐車できないこともある。慢性的な駐車場不足への対応が望まれる。

駐車許可証の発行については、正当な理由なく説明会に遅れた場合には配布しないこととなっているが、数名が期日に間に合わず、駐車許可証が発行されないケースがあった。また、複数回無許可の駐車があり同様に駐車許可証が発行されなかった。今後もこのルールは徹底するとともに、加えて駐車のマナーの徹底が求められる。

（2）旧 8 号線店舗前バス停の行列問題

地域の飲食店舗前にあるバス停を利用する本学園生（高校生・短大生・本学部生）が夕方の店舗の繁忙時間帯にバス待ちの行列が店舗駐車場の入口を塞いでいることへの苦情があった。この状態の改善のために、教職員が指導を行うことになったが、地鉄バスとの協議によって大学前のバスが増便され、このような問題が減少し、教員が立って指導するような場面は無くなるなど改善に向かっているが、地域との関係も含め注意が必要である。

（3）学友会会計及び大学祭会計の改善

学友会会計を中心に学友会と大学祭の会計の費目の整理と統合、領収証等の整理及びファイリングなど改善に取り組んだ。平成 30 年度の予算からは根拠のある予算を立てることができ、学生によって執行及び決算を得る作業が行える環境が整った。学友会が予算を執行して自主的に運営することができるようになり、ホワイトボードなどを購入した。また、1 年間の活動を見通した予算の執行と総会資料への増減等の記入ができるようになった。

大学祭の模擬店運営について、平成 29 年度から各模擬店に会計担当者を設け、模擬店毎に適切な会計の処理を行うようにシステムを変更した。初年度ではあったが、十分に機能し、適切に会計処理が行われた。会計が通常通り機能して、早く帰るとともに活動に積極的に参加で

できるようになった。今後は適正な会計処理を学び、社会に出ても活用できるようにすることが求められる。

(4) 学友会による大学周辺の学外地域清掃活動

平成 27 年度から始まった大学：5、7、11、1 月、短大：3、6、10、12 月、高校：4、8、9、2 月、各月 3 回、計 12 回ずつの学外地域清掃活動については、学友会による学生のボランティア活動として明確に位置付け、分担して計画的に活動に取り組んだ。その結果、学生の活動として定着するとともにゼミ担当教員の負担も軽減された。定着しつつある活動であるが、地域清掃を行うボランティア活動の意義やできるだけ全員の参加を促すなど学友会としての働きかけがさらに求められる。

(5) 学友会の改善

学友会は本学の教育理念・目標等に基づき、健全な学校生活と学生相互間の親睦を図るために学生が組織していることを理解し、より多くの学生の参加を促してきた。大学祭をはじめ、「七夕祭」「クリスマス会」「なごみ会」などの学友会の企画では内容の充実が図られ、地域のスマイルクラブのみなさんとの合唱や話し合う時間を設けることで交流が深まった。また、数年前とは比べ物にならない程、参加者も増え、達成感のある活動になった。このように学友会が中心となって行事の工夫と改善に取り組み、すべての行事で 1 年生と 2 年生が協力して運営することができるようになった。今後はさらに学生の思いや願いを積極的に表現することや東黒牧キャンパスとの連携を深めることが課題である。

6. キャリア（資格取得・就職）支援

1. 実績と現状

（1）キャリア支援計画

1年次から4年次までのキャリア関連講座（正規科目）を分野（小学校教育、保育・幼児教育、社会福祉、一般企業）ごとに立案・実施

キャリア入門講座（1年・後期）は、現場の専門家やOB・OGによる特別講義を開催した（小学校分野(1/15)・保育分野(12/10)・社会福祉分野(12/21)）。キャリア支援講座Ⅰ（2年・通年）、キャリア支援講座Ⅱ（3年・通年）にくわえ、キャリア支援講座Ⅲ（4年・通年）では、分野ごとに異なる就職採用時期を前提とした決め細やかなシラバスを作成、実施した。

（2）就職状況の周知

学生は就職活動状況を、教員はゼミ生の就職状況を、定期的にキャリア支援センターに報告することとし、毎月の教授会等で全教員に進捗状況を周知した。活動終盤で進路変更する学生もあり、分野を超えた密な情報交換を心がけた。

（3）資格・免許希望調査

年度が改まる前に、キャリア関連講座の分野希望及び資格・免許履修の確認をした（H31.3）。

（4）公務員・教員採用試験対策講座：呉羽キャンパスにて6日間実施した（H31.3）

（5）模擬試験の実施：

小学校教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養 H30.11/20・専門科目 H30.11/27）

幼稚園教諭・保育士・保育教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養 H30.5/31、専門教養 H30.6/7）、4年生対象（実務教育出版：一般教養・教職教養 H30.4/23、専門教養 H30.5/7）

社会福祉士希望3,4年生対象（中央法規 H30.8、日本社会福祉士会 H30.10、ウィネット H30.12）

（6）小学校分野の就職に関する懇談会

① 日時：平成31年2月27日（水）10:00～11:30

② 場所：富山国際大学呉羽キャンパス E棟会議室

③ 参加者：東部教育事務所・青山寿夫指導課長、西部教育事務所・大道博史指導課長、富山県小学校教育研究会（会長代理）原野克憲副会長、高岡市立定塚小学校・鳥内禎久校長、富山市立太田小学校・桑谷 聡校長（外部招聘者計5名）富山国際大学子ども育成学部教職員（辻井学部長ほか教員6名、事務職員2名計8名）

（7）各分野の採用状況・採用試験問題等の整理

今年度の小学校教員・幼稚園教諭・保育士・保育教諭・社会福祉士の採用状況及び受験状況を各市町・事業所ごとにまとめ、面接・筆記試験等の内容を整理した。

（8）福祉のお仕事フェア in TOYAMA への参加

富山国際会議場にて、福祉・介護分野（H30.7/15,7/16）では4年生11名の学生が、児童分野（H30.8/11）では4年生18名の学生が参加した。その後、メール、葉書、電話での勧誘が頻繁だったため、来年度の参加の仕方を検討することとなった。

（9）学内合同企業説明会等への参加

東黒牧キャンパスで行われた「学内合同企業説明会」に、一般企業を希望する学生計9名が参加した（H31.3/7～3/8）。また、今年度新規事情として、本学卒業生が勤務する企業との交流会を東黒牧キャンパスで実施し、1名が参加した（H31.2/15）。

（10）自主研修

将来の進路に備え自主的に研修を行う「自主研修」の学年別内訳は、4年生（3名）、3年生（10名）、分野別では、小学校分野（1名）、幼保分野（6名）、福祉分野（6名）であった。なお、来年度から、1-Day インターンシップや中長期のインターンシップにも対応できるよう、名称を「自主研修（インターンシップ）」として実施することが決定している。

(11) その他

- ①小学校で理科実験の準備や後片付け等を行う「観察実験アシスタント」に、4年生(14名)、3年生(16名)、2年生(15名)、1年生(15名)の計60名が登録、59名が勤務した。
インターンシップⅠでは3年生(9名)、インターンシップでは4年生(21名)また、砺波市庄西中学校学習支援ボランティア(夏休み学習会)、高岡市中学校土曜学習支援員、射水市学力向上対策事業における学生ボランティア(射水市中学生学び応援塾)として活動した。
- ②小学校で英語活動を支援する「英語学習パートナー」は、射水市の6校(放生津、作道、歌の森、中太閤山、大門、片口)に本学部から7名を派遣した。
- ③幼保分野では、呉羽キャンパス内にあるみどり幼稚園保育サポーターに2年生9名、3年生10名、4年生6名が(延べ32名)、学園福祉会のにながわ保育園保育サポーターに3年生8名、4年生2名(延べ26名)が取り組んだ。

2. 課題

昨年度からすべてのキャリア関連講座が正規科目となり、卒業までの4年間で、学生が希望する就職に向けた連続的継続的な支援体制がより整備された。

また、特定分野を対象とした就職説明会でも、他分野の専門職が関与できるものが複数あるため、引き続き分野横断的な指導や教員間の情報共有が必要であろう。

昨年度は、とくに一般企業を希望する学生の保護者からの要望が多く聞かれた。東黒牧キャンパスのキャリア支援センターともさらに連携を密にしながら、可能なかぎり期待に応えていきたい。

次年度の就職懇談会は福祉分野が予定されている。開催時期及び参加者リスト、議論すべき内容について早期準備が肝要である。

平成30年度卒業予定者(95名)の進路状況(平成31年3月20日現在)

小学校教育分野 38 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 27 保育士・幼稚園教諭	社会福祉分野 12 社会福祉士・相談員等
富山県公立学校教員(小学校) 26 新潟県公立学校教員(小学校) 1 石川県公立学校教員(小学校) 1 富山県公立学校講師希望 8 石川県公立学校講師希望 1 千葉県公立学校講師希望 1	黒部市生地こども園 富山市立大久保幼稚園 富山市立新庄保育所 富山市立堀川保育所 富山市立大久保保育所 富山市立岩瀬保育所 富山市立大山中央保育所 射水市立大島南部保育園 高岡市西部保育園 高岡市北部保育園 南砺市福光南部あおぞら保育園 富山城南会 2 射水万葉会 大山保育会 三日市保育所	[県市町] 富山市社会福祉士 2 [障害者施設・事業] セーナー苑 2 いみず苑 2 たかおか万葉福祉会 湊明会 [高齢者施設・事業] 大山福祉会 戸出福祉会 [病院(医療ソーシャルワーカー)] 真生会富山病院 金沢医科大学水見市民病院
公務員等 5		
富山県警察 滑川市職員(行政) 南砺市職員(行政) 青年海外協力隊 高齢・障害・求職者雇用支援機構		
企業等 10		

津根精機（株） アイシン新和（株） (株)成和システムエンジニアリング (株)アスパコミュニケーションズ 日本郵便(株)北陸支社 (株)中部薬品 (株)北陸銀行 (株)イーオン あおば農業協同組合 (株)一心堂	若葉保育園 東般若保育園 堀川幼稚園 3 紫幼稚園 徳風幼稚園 高岡愛育園（保育士） 富山県社会福祉総合センター （保育士）	
進 学 3		
上越教育大学大学院 2 富山大学大学院		

■主な試験等の結果（既卒者含む）

富山県公立学校教員（小学校）41 名合格（うち既卒者 14 名）

新潟県、石川県、東京都、千葉県公立学校教員（小学校） 各 1 名合格（東京、千葉は既卒者）

富山県内市町村保育士 13 名合格

■複数免許・資格の取得（予定）

（1）1人当たりの法定免許・資格（小・幼・保・社（受験資格））取得数：

4 種類＝6 名 3 種類＝37 名 2 種類＝31 名 1 種類＝20 名 無＝1 名

（2）資格・免許取得のべ数：

- * 小学校教諭一種免許状： 62 名（65.3%）
- * 幼稚園教諭一種免許状： 71 名（74.7%）
- * 保 育 士 資 格： 60 名（63.2%）
- * 社会福祉士（国家試験受験資格）： 21 名（22.1%） うち合格者 15 名（受験者 19 名）
- * 社会福祉主事任用資格： 94 名（98.9%）
- * スクールソーシャルワーク教育課程修了： 3 名（3.2%） うち認定者 2 名

7. 地域交流・貢献活動

1. 実績と現状

(1) 第10回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ : 「グローバル時代に育つ子どもたちの資質・能力」
- ・趣 旨 : 第10回子ども育成フォーラムでは、テーマをグローバル時代に育つ子どもたちの資質・能力の育成に焦点化し、その方策を対話に求めた。わが国の高校生は、国際的なフォーラムなどでは高いプレゼンテーション力を発揮するが、フロアからの質問には、適切に対応する力は高くないと言われている。つまり、質問を受け止め、瞬時に自分たちの論理を再構成し応答するといったことに長けていないのである。

今回のフォーラムでは、国際教育や対話研究に詳しい専門家をお招きし、児童生徒の主体性を発揮させながら、これからの時代に求められる能力としての「グローバル時代の対話力」をどのようにして育むのかについて講演をいただいた。対話の楽しみを体験する具体的な活動を交え、参加者の笑顔があふれるフォーラムとなった。現場教師の参加が目立ち、学生にとっても将来を見据えて大いに学ぶ機会となった。

- ・開催日時: 平成30年11月23日(金) 午後1時30分～4時10分
- ・開催場所: 富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟(E館)701-704号室
- ・参加者数: 約150名(教育・保育・福祉関係者、一般市民、学生など)

(2) 子ども育成学部第10回公開セミナーの開催

- ・テーマ : 「アートをきっかけに、『対話する力』について考える」
- ・趣 旨 : 平成30年11月に富山国際大学子ども育成学部が開催した第10回公開セミナーでは、進展するグローバル化を視野に入れ、「対話」がもたらす資質・能力の育成について取り上げた。本セミナーでは、昨年実施のフォーラムをさらに発展させ、参加者自らが楽しみながら対話を生み出す実践的な対話を試みることにした。具体的には、本学と富山県美術館との連携のもと、セミナー前半では、同美術館のエデュケーター瀧川織恵氏のリードによって、アート作品と個人との出会いによる自己内対話「アートとの対話」や、参加者をグループに分けファシリテーターを立ててのグループ内対話「アートをめぐっての人と人との対話」を楽しむこととした。また、後半は、本学の佐部利典彦講師の指導による「ガラス絵」の制作に取り組み、制作しながら語り合う「制作と対話」とのコラボレーションを行うこととした。

対話が生まれるには、活動の工夫は勿論、場の雰囲気や環境が大切であり、セミナー会場づくりにも重点を置いた。参加者一人一人の表情が見える座席の配置や、アート作品がどの方向からでも見えるようスペースをとり、参加者の感性が刺激されるよう配慮した。楽しい体験が、明日の実践に生きる新たな指導方策となると考えたからである。

- ・開催日時：平成31年2月16日（土） 午前9時30分～12時10分
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟（E館）701-704号室
- ・参加者数：約60名（保育・教育・福祉関係者、一般市民、学生など）

（3）高校出講プログラム（平成30年4月～平成31年3月）

4年制大学への進学に向けてのモチベーションを高めることに貢献しており、高校の授業で行われていない内容であるため、より高度でアカデミックな講義を高校生に触れさせる機会となっている。依頼校の要請に応じて行うので、福祉や教育について広く教養を伝えることを旨とし、テーマについて大学知を伝えられたという点で意義があった。高等学校を対象として、次のような出講プログラムを実施した。

講 師	月 日	依 頼 元	講 義 名 等
辻井 満	2019年4月17日	富山県立水鏡高等学校	道路ガイダンス
	2019年7月3日	富山県立入善高等学校PTA	道路ガイダンス
	2019年7月6日	能登富山高等学校	道路ガイダンス
	2019年7月10日	富山県立富山高等学校	道路ガイダンス
	2019年7月13日	富山県立水鏡高等学校	道路ガイダンス
	2019年7月24日	富山県立志賀野高等学校	道路ガイダンス
	2019年10月30日	富山国際大学付属高校	道路ガイダンス
瀬戸 健	2018年11月19日	南砺市立能町小学校	平成30年度 立派な訪問研修会
	2018年11月22日	南砺市立横野小学校	南砺市立横野小学校、自主研究発表会(南砺市学力向上推進 村教育委員会プラン策定事業拠点校研修会・南砺富山ESD 講座)
福島 孝子	2019年1月29日	富山県立南砺高等学校	平成30年度「大学連携講座」 題目「小学校から学ぶ英語」
福江 英一	2018年8月17日	富山市中学校教育研究会	富山市中教育委員会研修会
	2018年8月23日	富山市中学校教育研究会、 南砺市学校教育研究会青 森部会	平成30年度富山市中学校教育研究会青森部会実地講習会
	2018年8月31日	南砺地区生涯学習協議会	平成30年度南砺力レックス南砺地区教育講座
	2018年10月27日	立山町立富山中学校	合唱コンクールの特別審査
	2018年5月3日、5 月20日、7月18日、 8月27日、9月20日、 10月18日、1月24日	富山県立南砺高等学校	合唱部の指導
	2018年7月26日、8 月2日、9月17日	富山大学附属中学校	コーラス部の指導
村上 満	2018年6月11日	富山県立八尾高等学校	福祉マインドとは
	2018年6月15日	経緯国府高等学校	「よりよいコミュニケーションとは」
	2018年6月19日、20 日、7月3日、10日、 17日	富山県立富山いずみ高等学校	専攻科看護科「社会福祉(生活保護・障害者福祉)」
石倉 卓子	2018年7月9日	富山県立西高等学校	道路ガイダンス「保育者の仕事と大学での学び」
木江 達子	2018年7月29日	伏木高等学校	道路ガイダンス(分野別説明会)
松山 友之	2018年7月9日	富山県立大門高等学校	富山県立大門高等学校1年生対象道路ガイダンス「富山国際 大学子ども育成学部の学び―小学校教員になるために―」
	2018年12月10日	富山国際大学付属高等学校	平成30年度 富山国際大学・富山短期大学・付属高校連携講 座「子どもと自然 子どもと科学」
佐藤利典	2018年6月7日	稲佐市立豊良東小学校	豊良東小学校運営協議会
	2018年10月26日、11 月2日、16日、30日、 12月7日、14日、20 日、21日	稲佐市立豊良東小学校校長	こよみのよびね(冬至行事)における制作活動
	2018年11月8日	福川幼稚園	アクションペインティングワークショップ
	2018年11月29日	福川幼稚園	顔を描こうワークショップ

(4) 地域出向プログラム（平成30年4月～平成31年3月）

期 間	月 日	位 置 元	主 要 事 業
辻 井 潤 雄	2019年5月25日	高岡市男女平等推進センター	平成30年度第1回高岡市男女平等推進センターネットワーク会議
	2019年6月7日	美穂市立石田小学校	学友向上委員会
	2019年7月31日	富山県教育委員会	いじめ対策委員会
	2019年9月7日	経営学園組合会・経営小学校	富山フィールドワーク
	2019年9月25日	永見市上庄小学校	学友向上プロジェクト「事業(永見市学友向上推進組合)」
	2019年10月10日	美穂市立石田小学校	学友向上の学校と関係者会議
	2019年10月11日	新水市農	平成30年度第1回新水市男女共働き推進会議
	2019年11月1日	美穂市立中津山小学校	学友関係者会議
	2019年11月15日	高岡市立豊南小学校	高岡市小中一貫教育推進事業の小中連携による授業等公開
	2019年11月20日	美穂市立石田小学校	学友向上委員会
辻 井 潤 雄	2019年1月31日	美穂市教育委員会	市内7小学校との学友向上懇談会
	2019年2月15日	美穂市教育委員会	サポートネットワーク会議
瀬 戸 貴	2019年5月25日	高岡市男女平等推進センター	平成30年度第1回高岡市男女平等推進センターネットワーク会議
	2019年5月30日	新美穂立教育センター	平成30年度エドルリダー一歩進出講座
	2019年6月27日	永見市教育文化センター	親ある子育てづくり研修会
	2019年7月4日	永見市教育文化センター	小中連携教育推進委員会
井 井 文 之	2019年8月4日	美穂市教育センター	美穂市エドルリダー一歩進出
	2019年2月2日	戸出地区教育研究会	戸出教育委員会
	2019年6月4日	小次郎市農	第1回小次郎市小中学校関係者会議
	2019年7月13日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(専門部会)(第1回中学校部会)
	2019年7月22日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(専門部会)(第1回小学校部会)
	2019年8月23日	富山県生涯学習・青少年関係推進協議会	第4回「少年の生涯富山大会」における審査委員
	2019年8月30日、31日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(専門部会)への派遣
	2019年10月23日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(専門部会)(第1回中学校部会)
	2019年10月24日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(専門部会)(第1回小学校部会)
	2019年12月4日	小次郎市農	第1回小次郎市小中学校関係者会議
高 田 肇	2019年1月27日	富山県小中学校教育研究会	教育研究論文発表会
	2019年1月28日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(永見市出席)
	2019年2月5日	富山県生涯学習力レジャージョイセンター「力」	富山県生涯学習力レジャージョイセンター「力」運営会議
	2019年2月27日	小次郎市農	小次郎市小中学校関係者会議(小中学校校長会との意見交換会)
	2019年2月25日	富山県生涯学習力レジャージョイセンター	富山県生涯学習力レジャージョイセンター
	2019年12月4日	山形市農	子育て世代包括支援センター事業報告会
村 上 浩	2019年5月23日	富山県生涯動くふしの助け合センター	結核の基礎「新」術とは技術、動くは人の魂」

期 間	月 日	催 進 元	講 義 名 等
富 山 市 区	2019年 6月26日	社会福祉法人新川西四ツ子会	産婦人科研修会
	2019年 5月16日	社会福祉法人富山市社会福祉協議会	事業報告会研修会
	2019年11月17日	セミナー勉強会	セミナー勉強会職員会
	2019年 7月30日 2019年 2月27日	富山県立富山高等学校学芸部	県立学校研修委員会
	2019年 7月17日	特定非営利活動法人 私立生活支援センター富山	地味北沢利剛副会長・私立生活支援センター富山第二委員会
	2019年10月 6日	富山県児童福祉支援センター	富山県児童福祉支援センター一連訪問研修会
	2019年 5月26日、8月2日、7月2日、9月10日、10月10日、11月27日、12月5日、2019年 2月5日、2020年 2月5日、2020年 2月5日	富山県学生生活福祉協議会	富山県学生生活福祉協議会研修事業に係るアドバイザー
	2019年 6月30日	富山県福祉サービス第二会 特別派遣員研修会事務局	富山県福祉サービス第二会特別派遣員研修委員会
	2019年12月11日	新川西四ツ子会	平成30年度新川西四ツ子会グループホーム訪問研修会
	2019年 6月13日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度福祉支援事業推進委員会研修会
	2019年 5月14日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度富山県立福祉支援事業報告会研修会
	2019年12月18日	富山県社会福祉協議会	平成30年度富山県社会福祉協議会立寄施設訪問研修会
	2019年 6月 5日	社会福祉法人富山県社会福祉協議会、 富山県福祉サービスセンター	平成30年度富山県福祉サービスホームヘルパー等養成研修会
	2019年 8月1日、11月13日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度富山県福祉支援事業報告会研修会
	2019年10月 9日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度富山県福祉支援事業報告会研修会の打ち合わせ
	2019年 9月28日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度富山県福祉支援事業報告会研修会の打ち合わせ
	2019年 6月28日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度富山県福祉支援事業報告会研修会の打ち合わせ
	2019年 6月18日	富山県社会福祉協議会	平成30年度富山県社会福祉協議会審議会
2019年11月20日	富山県社会福祉協議会	平成30年度とやま支援委員会サーター・第一回富山県委員会	
2019年 6月28日	富山県学生生活福祉協議会、 富山県学生生活協議会	平成30年度福祉支援事業報告会研修会	
2019年 9月28日	富山県社会福祉協議会	地味北沢利剛副会長・地味北沢利剛副会長	
旭 山 郡	2019年 2月22日	福祉支援施設福祉センター	施設にて開催されるまぶくり事業研修会
	2019年 4月30日、5月 5日	一般社団法人メンタルヘルス・サポート	平成30年公開心相談員研修会報告プログラム
大 平 町	2019年 7月 2日	特定非営利活動法人富山県学生生活支援センター	施設対面方式向上セミナー
	2019年 8月 3日	富山県総合教育センター	平成30年度福祉支援事業報告会研修会・新職員研修会研修会(熱帯夜研修会)
	2019年 6月22日	高岡市社会福祉協議会	高岡市社会福祉協議会研修委員会
	2019年 6月24日	特定非営利活動法人富山県学生生活支援センター	地味北沢利剛副会長・富山県学生生活支援センター
	2019年10月 9日	公立学校共済組合富山支部	平成30年度とやま支援委員会サーター・事業におけるメンタルヘルスサポート
2019年10月28日	特定非営利活動法人富山県学生生活支援センター	平成30年度(東2区)在学福祉協議会研修会	

期 日	月 日	担 任 元	講 義 名 称
大 平 孝 子	2019年11月13日	富山県教育センター所長	結婚のメンタルヘルスの調査
	2019年11月13日	富山県警察協会支隊センター	警察対応7問上セミナー
	2019年11月25日	富山県立人権啓発センター	富山県立人権啓発センターの結核研修
	2019年12月10日	富山県教育センター所長	平成30年度子育てケアマネジメント研修会（富山研修）
杉 山 友 之	2019年 7 月25日	富山国際大学・富山短期大学	富山国際大学・富山短期大学リサーチセンター富山県国際地域協会のアセスメント富山県国際地域協会のサイト「働くおもしろさを伝えよう！」
	2019年 8 月25日	富山国際大学・富山短期大学	富山国際大学・富山短期大学リサーチセンター富山県国際地域協会のアセスメント富山県国際地域協会のサイト「働くおもしろさを伝えよう！」
	2019年10月 6 日	富山国際大学・富山短期大学	富山国際大学・富山短期大学リサーチセンター富山県国際地域協会のアセスメント富山県国際地域協会のサイト「働くおもしろさを伝えよう！」
	2019年10月27日	富山国際大学・富山短期大学	富山国際大学・富山短期大学リサーチセンター富山県国際地域協会のアセスメント富山県国際地域協会のサイト「働くおもしろさを伝えよう！」
	2019年 7 月27日	平成30年度富山県保護士養成セミナー	平成30年度富山県保護士養成セミナー富山県行政委員会開催
近藤利典彦	2019年 8 月 1 日	富山県子ども文化事業実行委員会、中核協会の会	子ども文化の創造性講座
	2019年 8 月 7 日	富山県国庫	国庫銀行行事

（５）平成 30 年度教員免許状更新講習

- ・内 容：必修領域・選択必修領域開講
- ・募集期間：平成 30 年 7 月 9 日（月）～7 月 18 日（水）
- ・日 程：平成 30 年 8 月 20 日（月）・21 日（火）
- ・受講者数：81 名（幼稚園教諭免許状 79 名・小学校教諭免許状 2 名）
- ・認 定 者：84 名
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701 室・702 室

（６）平成 30 年度幼稚園教諭免許状特例講座

- ・内 容：必要 8 単位分の講座
- ・募集期間：平成 30 年 5 月 16 日（水）～5 月 22 日（火）
- ・日 程：平成 30 年 6 月 30 日（土）～12 月 16 日（日）の期間で 16 日間実施
- ・受講者数：39 名（内 17 名は一部講座受講者）
- ・認 定 者：39 名（取得単位数は各受講者の講座選択状況による）
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 E 406

2. 課題

（１）子ども育成フォーラム

子ども育成フォーラムは、ひとづくり財団の助成金が 2019 年度から大幅な減額となるため、パンフレットの発送、会場装飾、プログラム等の印刷物作成を最小限としなければならない。また、物講師の人選、期日の決定等で学園行事や学外行事が多い時期であることから集客が難しくなっているのが現状である。

（２）平成 30 年度教員免許状更新講習

平成 27 年度より講習が始まり、必修領域に加えて選択必修領域を設定し実施した。新免許保持者の有効期限満了者も発生しており受講者の急増が予想される。一昨年から定員を 50 名から 80 名に増加させ対応。今後もこの定員にて実施を予定したい。

8. 後援会・家庭連絡

1. 実績と現状

(1) 後援会総会・個別相談会

H30.6 後援会総会に合わせて個別相談会が実施され、39名の相談希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、ゼミ担任などが対応した。

(2) 大学祭・保護者懇談会

H30.10 第9回大学祭初日に、保護者説明会を開催し、学部と学生の概況、就職動向などについて説明した。

説明会終了後、26名の希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

(3) 保護者あて「学生の皆さんの概況について」の送付

H30.5 に第19報、H30.9 に第20報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年演習担当者。

※別紙「第19報」及び「第20報」を参照

(4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担任または適応支援チームが個別面談の機会を持ち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

2. 課題

(1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、平常時からの家庭との連絡・協力をより緊密にしていく必要がある。

(2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担任個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。

既存の「学生に関する調書」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継できるようにしていく必要がある。その際、既存の「教職カルテ」の改良と活用も含めて検討していく必要がある。

9. 研究活動

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部紀要第10巻～第1号(2018年10月号)では2篇、第2号(2019年3月号)では9編、計11篇の論文の投稿があった。

第1号

【論文】 大藪敏宏 「戦後教育改革と戦時期南原繁の教育哲学—GHQが「畏敬」した「洞窟の哲人」—
辻井満雄・氷見卓也 「小学校段階におけるキャリア教育についての一考察」

第2号

【論文】 石倉卓子・竹田好美・岩城愛・水島志穂子・横田美咲 「認定こども園の園庭における遊びの
質を考える—保育教諭がとらえた幼児の経験から—」

大藪敏宏 「福祉行政と職業団体における偶然性への「事前配慮」—未来の不確実性をめぐる
ヘーゲル法哲学と偶然性原理—」

彼谷環・村上満・本江理子 「「子どもの権利条約」をいかに実践するのか—保育・社会福
祉・人権論から考える—」

河崎美香・明柴聡史 「「個別の指導計画の作成、記録及び評価」の教授方法・内容の研究
—障害のある子どもの保育における保育士等研修を通して—」

黒田陽一・仲井文之 「教材を正しく読み取る低学年の音読指導」

辻井満雄・氷見卓也・村田夏樹・宮腰真央・石垣孝太 「小学校教育におけるキャリア教育の
展開—自己分析と他者評価の関連性について—」

仲井文之 「神宮皇學館大学における山田孝雄についての一考察」

堀江英一 「唱歌集の研究—調性・音域・ヨナ抜き音階の観点から—」

松山友之 「アクティブラーニングを活用した授業改善に関する研究」

(2) 助成研究への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金(科学研究費補助金)

石倉卓子 「認定子ども園における遊びの質を保障する園庭環境評価基準(幼児版)の試案作
成」(H30年度まで延長)

大平泰子 「青年期の双極性障害における自傷行為の機序に関する研究」(H30年度まで延長)

瀬戸 健 「教員や保育士等、実践側のニーズを踏まえた幼保小接続に関する意思決定過程の
研究」(H31年度まで継続)

水上義行 「学校のパフォーマンスと教員のメンタルヘルスに関する実証的研究」(H28～
30年度)

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

金子泰子 「幼児期の投能力における性差の縮小に有効な投運動プログラムの開発について」
(H30年度)

佐部利典彦 「想像的で創造的な学びの場の創出」(H30年度)

(3) 研究交流サロン

平成 30 年度に研究サロンは行なわれなかった。

(4) ニュース・レター「子ども育成研究」の発行

「子ども育成研究第 17 号」(H30 年 10 月)：第 10 回子ども育成フォーラム報告

「子ども育成研究第 18 号」(H31 年 3 月)：第 10 回公開セミナー報告

(5) 学生の研究活動

平成 31 年 3 月 2 日に「富山国際大学子ども育成学部小学校教育研究学会」の設立集会が行われ、本学部で初めて学会が成立した。同日から会則も施行される運びとなった。また、この学会の母体となっている「小学校教育研究会」(タイズ)では、前年(平成 30 年)の 11 月 24 日に、桂聖氏(筑波大学附属小学校教諭)による講演、「授業のユニバーサルデザインー「全員参加」の国語授業づくりを中心にー」(富山県寄附講義)の運営に当たり、本学学生だけではなく外部からも多くの参加者を得て盛会となった。

2. 課題

(1) 紀要の発行

投稿数は前年度の 13 編から 2 編減少したが、共同執筆が多くなり、執筆者数は前年度の 13 名から延べ 24 名へと大幅に増加した。1 年に 2 回出版するようになって 2 年目だが、10 月発行の第 1 号(10 月発行)への投稿数は前年度並みに少ないため、第 1 号においても多くの教員の意欲的な取り組みが見られるようになることが望まれる。

(2) 研究助成の競争的資金獲得への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金(科学研究費補助金)

平成 30 年度の子ども育成学部では、計 4 件の研究が行われた。いずれも過年度に採用された研究の継続または延長であり、新規採用はなかった。今後の発展に向けて教員の積極的な応募が不可欠である。教員の意欲と研鑽に依って応募が可能となり、採用の可能性が出てくるので、各教員が自身の研究を醸成できる職場の環境づくり(例えば標準的な担当授業時間数の設定等)も重要である。

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

平成 30 年度は 2 名に各々 50 万円の助成が行われた。その研究結果の公表の機会を持ち、本学部教員の研究の様子が広く知られるようになることが望ましい。

(3) 研究交流サロン

教員の多忙による日程調整の難しさがあり、年 1 回の実施が定着していたが、平成 30 年度には初めて 1 回も実施されなかった。発表をしていない教員や新任の教員の積極的な発表が望まれるが、学部の教員間の研究交流のために学部創設時から取り組まれてきたこのサロンの活動を、中断などを含めて今後どうすべきかの方針が立てられるべき時期に来ている。

(4) 学生の研究活動

学生及び卒業生のこれまでの研究活動の成果として、「子ども育成学部小学校教育研究学会」が設立されたことは喜ばしい限りである。在校生は全体的に、県内のインターシップや地域の子ども達や人々を対象にした学生主導の事業等を通して実践的な学びを深めていると言えるだろう。小学校教育と同様に保育、幼稚園教育、社会福祉の分野でも子ども育成学部の学会が設立されるかどうかは未知数である。

10. その他

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部学位記授与式

- ・ 第7期生 95名卒業：平成31年3月20日(火)10:00～、富山国際会議場3階ホール

(2) E館1階ラウンジ出入口ドア改修工事

車椅子の学生が人の手を借りずに自身で開閉できるよう押し引きタイプを横開きスライドドアに改修。冷暖房時でも今までドアを常に解放していたが、これにより常に閉じておくことができ、省エネ効果もある。(平成30年9月)

(3) 平成30年度 富山国際大学・富山短期大学 幼稚園教諭免許状特例講座

認定こども園法改正・施行により、平成27年4月から、幼稚園教諭の普通免許状に係る所有資格の期限付特例が実施されていることに伴い、富山短期大学幼児教育学科との連携により開催し、8単位分を開講した。

- ・ 開講講座：「教職の意義等」(2単位)、「教職に関する制度的・社会的事項」(2単位)、「教育課程論」(2単位)「保育内容指導法及び教育方法・技術」(2単位)、「幼児理解」(2単位)
- ・ 開講期間：平成30年6月30日～平成30年12月16日の間の土・日曜日計16日間
- ・ 会 場：富山国際大学・富山短期大学 呉羽キャンパス
- ・ 受講生：39名

2. 課題

(1) 教具・備品、施設・設備等の故障・修繕の増加

特に近年は高額な空調設備機器の故障が目立つようになってきている。又、特に教室設置型のプロジェクターは平成30年度中に全て部品供給補償期間が終了したことから、今後更新が必要となる。

(2) 学生数増加に伴う教室不足とその対応。ロッカー等のアメニティー空間、学習環境の整備

(3) 食堂(G館)のWi-Fi環境整備

(4) 呉羽キャンパス各機関との各種調整(時間割、施設使用、行事日程等)

11. 将来構想

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部アクションプランの策定

① 全学のアクションプラン（H30～）に対応した取り組み

平成 30 年度からのアクションプランの策定が行われ、子ども育成学部においても、策定に向けた検討を行った。具体的な活動計画（5 カ年計画）については、30 年度末に策定し、全学のプランに組み込んだ。

② 子ども育成学部の各部署の新規・重点事項の設定

アクションプランに呼応しつつ、学部内の各部署の新規・重点事項の設定について検討を行う必要がある。

(2) 「子ども育成学部第 2 期運営計画」とアクションプラン等の整合性

子ども育成学部では、平成 24 年 8 月に「第 2 期運営計画」を策定し、平成 24 年度から、その実現に向けて改革に取り組んできた。30 年度は新教育課程の実施に向けて準備に取り組んだ。

① 30 年度新教育課程の実施 4 年目

26 年度の改革された新教育課程による授業に取り組み、充実を目指した。

② 教員組織の再編成

30 年度より 2 名増の人員で実施した。

③ 学生支援の充実

学友会・サークル活動・同窓会活動など学生支援を強化してきた。

④ キャリア支援の充実・体系化

26 年度必修科目「キャリア入門講座」、27 年度選択科目「キャリア支援講座Ⅰ」、28 年度選択科目「キャリア支援講座Ⅱ」、29 年度選択科目「キャリア支援講座Ⅲ」となり、すべての学年で正規科目として実施し、それを平成 30 年度は充実させてきた。

⑤ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

平成 31 年 3 月に小学校分野の学内学会が設立された。今後、保育分野、福祉分野での設立に向けた支援強化が必要である。

⑥ 実習環境の整備

実習事務担当者の配置は、困難な状況が続いており、未達成である。実習協力園の確保については、「幼稚園教育実習Ⅰ」の学外実習協力園は、免許取得の必修から選択に切り替えたことより、確保できている。

(3) 「子ども育成学部の教育課程」の一部変更

① 教職課程認定申請（平成 31 年度開設・再課程認定）

平成 28 年 11 月に教職免許法の改正により、平成 31 年 4 月より新教職課程が開設されるので、改めて平成 30 年度中に認定・指定を受けることになった。今年度中に申請書類

を揃えて提出のため、平成 31 年度を見越して学則変更等や教員配置計画を進める必要があり、「再課程資料作成チーム」を中心に資料作り進めてきた。平成 30 年 4 月 16 日に申請書を提出し、平成 31 年 1 月 25 日に認定された。

また、平成 29 年 5 月より、厚生労働省において、「保育士養成課程等検討会」が設置され、保育を取り巻く社会情勢の変化、保育所保育指針の改定を踏まえ、より実践力のある保育士の養成に向けて、平成 31 年度より保育士養成課程が見直しされることになり、具体的に見直しの方向性として「乳児保育の充実」「幼児教育を行う施設としての保育の実践」「養護の視点を踏まえた実践力の向上」「子どもの育ちや家庭への支援の充実」「社会的養護や障害児保育の充実」「保育者としての資質の専門性の向上」が示されたことを受け、科目の新設・変更、保育士養成課程科目の見直しを行った。平成 30 年 9 月 28 日に申請し、富山県知事より平成 30 年 10 月 31 日に認定された。

2. 課題

(1) アクションプラン等の実施と PDCA サイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や重点的に取り組む事項についても、確実に実施して PDCA サイクル化していかなければならない。

(2) 学園創立 50 周年以降の中長期的構想

本学園は、昭和 38 年に地域密着型の学園（旧.学校法人富山女子短期大学）として設立された。創立 50 周年の平成 25 年以降の経営戦略・計画は不透明であったが、少子化を見越して、学園全体の将来構想の中・長期的な検討が行われた。それを受けて、次年度は子ども育成学部の対応策を検討しなければならない。

(3) 子ども育成学部の中長期的構想

教職課程の再課程認定と保育士養成施設の保育士養成課程認定のため、検討は行わなかった。